

八王子地区保護司会だより

第 97 号

平成 27 年 8 月 15 日発行

発行 八王子地区保護司会

編集 広報部

電話 042-657-4928



第 65 回 “社会を明るくする運動” 駅頭一斉広報活動（南大沢駅）

安全・安心な街づくりをめざして

八王子地区保護司会

会長 内田 實



さる 4 月 28 日に開催されました八王子地区保護司会定期総会におきまして会長にご指名いただきました。もとよりその任ではございませんが会員各位のご協力をいただきながら大任を全うすべく努めてまいります。

八王子地区保護司会は他地区に先駆け平成 10 年には社会体験活動（社会参加活動）、平成 13 年には八王子地区更生保護事業協力雇用主会、平成 14 年には学校サポート委員会（現学校担当委員会）、平成 19 年には保護司候補者内申委員会（保護司候補者検討協議会）を立ち上げ、推進してまいりました。

平成 13 年にはこれまでの功績が認められ、瀬戸山賞を受賞（全国初）しました。今後も先輩諸氏が築かれた伝統に恥じぬよう努めてまいります。

平成 21 年には念願の保護司会事務所が八王子市のご協力により開設され 24 年からは更生保護

サポートセンターが併設されました。少し手狭ではありますが交通の利便性が高いのが最大の利点です。保護観察官、保護司、関係団体との会議、対象者との面談等の拠点としての機能を発揮しています。

また、平成 21 年度より「子ども若者サポート事業」を東京都（現在は八王子市）から受託し、相談窓口を開設していますが年々相談者が増えると共に更生保護関係以外の相談件数も増加傾向にあります。

本年 4 月 1 日は八王子市が“中核市”として新たな時代に入った記念すべき年でもあります。保護司会は八王子地区の安全・安心な街づくりの一翼を担っているわけですから会員相互の連携、更生保護関係機関・団体等との一層の交流を深め、不断の努力によって明るい社会の実現を目指してまいりますのでご支援、ご協力を賜りたくお願いいたします。

結びに皆様のご健勝をご祈念申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

時の話題

～社会貢献活動の本格実施について～

東京保護観察所立川支部

支部長 南元 秀夫



八王子地区保護司会の皆様には、平素、更生保護活動にご尽力いただき、誠にありがとうございます。本年6月、社会貢献活動の本格実施が始まりました。立川支部管内においては、保護観察所で実施する切手整理活動や府中地区及び西多摩地区における福祉施設での介護活動のほか、八王子地区の東京元気農場における援護活動も社会貢献活動として実施させていただくこととしました。雨天の場合は、代替作業としてサポートセンター（クリエイトホール）で切手整理活動を行う予定です。

社会貢献活動は、特別遵守事項により参加が義務付けられた人たちが対象となるなど社会参加活動とは異なる点が多々あります。しかし、最も大切なことは、参加した対象者が、感謝されるなどの経験を通じて少しでも「自己有用感」を高めること。これまで社会参加活動の実施により培われたノウハウを、今後は是非、社会貢献活動にも活かしていただきますようお願いいたします。

「ご挨拶」

統括保護観察官 仲野 智之



本年4月、甲府保護観察所から立川支部へ転任してまいりました。拝命から26年間、首都圏の更生保護官署を中心に勤務してまいりましたが、立川支部での勤務は、八王子支部時代を含めて初めてとなります。慣れない場所での勤務となり、保護司の皆様方からいろいろと教えていただくことも多いかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

現在、立川支部では八王子地区のほか、支部管内4カ所の更生保護施設、社会復帰調整官室等を担当しています。保護司の方々とは直接関わる機会が少ない業務が中心ですが、八王子地区については、自愛会と紫翠苑の両更生保護施設に対して多大なるご協力をいただいていることがあり、また、今後就労支援等再犯防止のための施策を進めていく上でご理解、ご協力をいただく機会も多くなると思います。そのことに深く感謝しつつ、日々の業務を着実に遂行していく所存ですので、ご指導ご鞭撻のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

「着任のご挨拶」

主任保護観察官 多田 英樹



本年4月に関東地方更生保護委員会事務局審査部門から転任し、八王子地区保護司会西分区を担当させていただくことになりました。どうぞよろしくをお願いいたします。

前任地では矯正施設に駐在して、受刑者に対する仮釈放審査のための事前調査や入所時及び仮釈放時の教育などに携わってきました。

久しぶりに地区担当として仕事をする中で、若干勘が鈍っていると感じられることもあります。一方、毎月保護司の先生方から届く保護観察経過報告書を読ませていただく中で、処遇の前線に戻ってきたのだという実感と前任地で得られた経験や視点を今後の処遇に生かしていきたいという思いも強くしています。

再びご縁があって4年振りに立川支部に戻ってきました。微力ですが土地と人のご縁を大切にしながら一生懸命やっていきたいと考えています。

「着任のご挨拶」

保護観察官 神野 聖子



本年4月に東京保護観察所から転任し、八王子地区みなみ分区を担当させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

八王子地区を担当することが決まった時、以前担当したことのある保護観察官からは「八王子地区の保護司さんは、皆さん処遇熱心ですよ」と聞いておりました。実際、毎月の保護観察経過報告書を読ませていただいたり、お会いして会話させていただく中からも、保護司の皆様のご熱意を感じているところです。私自身、これまで何度か高尾山に登ったことがあり、自然豊かな地区というイメージがありましたが、駅前には大型施設などもあり、様々な魅力的な顔があることを実感しております。今後も八王子市内をたくさん歩き、多くの方と触れ合いたいと思っています。

八王子地区の更生保護のために少しでもお役に立てるよう、努力させていただく所存ですので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



平成27年度 八王子地区保護司会 定期総会開催される

さる 4 月 28 日（火）午後 3 時より京王プラザホテル八王子において、平成 27 年度八王子地区保護司会の定期総会が、八王子市議会議長、八王子市教育長、東京保護観察所立川支部長、東京都保護司会連合会会長ほか多数のご来賓ご臨席の下盛大に開催されました。

議長団に中央分区から印南幸子氏、高尾分区から伊勢崎文子氏を選出し、平成 26 年度事業報告、平成 26 年度収支決算報告、会務監査報告、理事の選任など 8 議案が審議され、承認されました。最後に、ご臨席を賜りましたご来賓各位からご祝辞をいただき、定期総会を終了いたしました。

なお、平成 26 年度末で 3 期 6 年の職責を全うされました大竹会長からは新任役員の皆様へ熱いエールが送られました。内田会長を始め役員の皆様のご活躍をご祈念申し上げます。



定期総会全景



懇親会市長あいさつ

平成 27 ～ 28 年度保護司会役員

- 顧問 大竹 通夫 石森 孝志
- 相談役 廣瀬 正夫 柚原 道平 渡邊 洋子
瀧見 浩之 相原 守
- 会長 内田 實
- 副会長 三橋 正行 小泉 俊男
三入 重夫 塚本 秀雄
- 監事 橋本 重信 萩生田元章
- 分区長 東：山中 廣司 中央：角田 幸三
高尾：加藤 克明 西：新野 照代
みなみ：佐藤 益國
- 部長・委員長 総務部：前田善一郎
研修部：荒井 浩平
地域活動部：畑野 和子
広報部：深須 達男
協力組織部：石森 康夫
学校担当委員会：河井 孝之
- 会計 吉田 隆明 本田 良久
- 書記 佐藤 順一 小山 幸夫

5月19日 多摩連理事会開催 ～野崎会長のもと新体制がスタート～

平成 27 年 5 月 19 日（火）午後 2 時 30 分より、多摩地区保護司会連絡協議会（略称：多摩連）理事会が、東京保護観察所立川支部会議室において開催され、各地区から今年度理事約 70 名が参集しました。

同理事会においては、これに先立ち 4 月 15 日に行われた新旧理事会の席上で選考された新役員案が承認を得て、次のとおり決定しました。



- 会長 野崎 重弥（北多摩地区会長）
- 副会長・総務部長 平本 璋一（町田地区会長）
- 副会長・研修部長 粕谷 勝榮（北多摩西地区会長）
- 副会長・地域活動部長 鴨志田守久（調布・狛江地区会長）
- 副会長・広報部長 須崎 英夫（北多摩東地区会長）
- 監事 馬場 久夫（調布・狛江地区）
比留間克美（北多摩地区）

法務省主唱の“社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～は本年 65 回目を迎え、八王子地区保護司会を始め 29 団体から構成される実施委員会では、市内 8 駅 11 カ所での「駅頭一斉広報活動」の実施やいちようホールでは「作文発表及び小・中学生による音楽の集い」が開催されました。

中央委員会が推進する『重点目標』

- ・出所者等の事情を理解した上で雇用する企業の数を増やすこと
 - ・帰るべき場所がないまま、刑務所から社会に戻る人の数を減らすこと
- を踏まえ、全国の更生保護団体、関係機関、多くの方々の参加のもと開催されました。

本年 65 回目を迎えたこの運動は、

◎昭和 24 年 7 月 1 日「犯罪者予防更生法」という更生保護制度の基本法が施行され、更生保護制度が新しくスタートしましたが、戦後の荒廃した中、街にあふれた子供たちの将来を危惧した銀座商店街の有志たちが、保護少年のためのサマースクール開催を目的に同年 7 月 13 日から 1 週間にわたって「犯罪者予防更生法実施記念フェア」（銀座フェア）を開催。

◎昭和 25 年 7 月 1 日～10 日までの間、銀座フェアが刺激となり「矯正保護キャンペーン」が全国的に実施。

◎昭和 26 年 7 月「銀座フェア」と「矯正保護キャンペーン」を通じて犯罪の防止と犯罪をした人たちの立ち直りは、一般市民の理解と協力が不可欠であることが認識され、この啓発活動を将来とも継続して一層発展させる必要があるとして“社会を明るくする運動”と名付け、国民運動として広げるための努力が払われました。

◎平成 22 年、新名称として「“社会を明るくする運動”～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～」が定められ、新名称のもと、さらに地域に根ざした国民運動として推進されています。

(法務省ホームページを参考)

八王子市が中核市となって初めての“社会を明るくする運動”は、7 月 1 日駅頭一斉広報活動から始まりました。八王子駅北口では生憎の雨の中、実施委員長石森市長の開会のご挨拶の後、保護司会、民生児童委員協議会、更生保護女性会、BBS 会、母の会、防犯協会等多数の団体の皆様が、一斉に駅頭に



“第65回 社会を ～犯罪や非行を防止し、立 平成27年7

立ち道行く人たちに「犯罪のない明るい社会を築きましょう」の呼びかけと共に、チラシとウエットティッシュを配りました。西八王子駅、高尾駅など合計 8 駅 11 ヶ所で一斉広報活動が実施され、市民の皆様に積極的な協力を呼びかけました。

また、7 月 20 日の海の日には、八王子市芸術文化会館「いちようホール」にて、『みんなに届け！私たちのメッセージ』が開催され、多くの市民の皆様が参加され、大ホールがほぼ満席となりました。

第 1 部「第 64 回“社会を明るくする運動”作文コンテスト表彰式・入賞作品発表」では、応募総数 193 点の中から、入賞者 6 名が選ばれ、石森市長から表彰状と記念品が贈られました。

◎最優秀賞 記村 佳吾さん 第一中学校

◎優秀賞 吉田 凧希さん 元八王子小学校

古見 優衣さん 愛宕小学校

田中 青空さん 七国中学校卒業生

清水 綾花さん 楢原中学校

大町 真優さん 綾南中学校

その後入賞作品の発表がありました。どんな人にもこちらから心を開き平等に接していくこと。心の気持ちを変える力を持っているあいさつ運動に積極的に取り組むこと。一日一回ありがとこの言葉を使うことで、明るい社会へ変化していくありがとこの魔法など、身近な体験を通しての提言や、犯罪をなくしていくためには、一人ひとりの意識を高めることが大切で、自分ができることに最善を尽くしたいなど、次代を担う若者達の頼もしい発表が続き、会場の皆様からは、惜しみない拍手が送られました。

第 2 部「小・中学生による音楽の集い」では、

柏木小学校 演舞「中野七頭舞」

鎌水中学校 合唱「プレゼント」「春」

桐田中学校 吹奏楽 マーチ「春の道を歩こう」他が披露されました。難しい神楽を、色鮮やかな衣装に身を包み、きれよく踊る演舞や、清涼感のある澄んだ歌声、85 名の大迫力の吹奏楽の演奏など、会場からは盛大な拍手が続きました。

明るい社会づくりに向けた、若い力のすばらしいメッセージが、会場一杯に満ち溢れた集いでした。

“明るくする運動”

ち直りを支える地域のチカラ～
月 1 日～31日

駅頭一斉広報活動 7月1日



JR 八王子駅北口



八王子みなみ野駅



北野駅



めじろ台駅



高尾駅北口



JR 八王子駅北口



小・中学生による 音楽の集い 7月20日

市立柏木小学校



市立鎌水中学校



市立梶田中学校

主場/法務省

人はみな、
生かされて
生きてゆく。

第65回 社会を明るくする運動

平成27年度多摩地区更生保護事業 関係者顕彰式典が開催されました

平成 27 年 7 月 3 日 東京保護観察所立川支部
に於いて多摩地区保護司会連絡協議会主催の平成
27 年度顕彰式典が開催されました。
八王子地区保護司会からは次の方々が受彰され
ました。

- | | | |
|--------|-------|--------|
| 足立 芳二郎 | 遠藤 和男 | 角田 敏江 |
| 榊原 亨花 | 立川 道雄 | 森屋 義政 |
| 若山 基美 | | (五十音順) |

各部・各分区だより

「分区長に就任して」

新野 照代

この度、西分区長に就任いたしました。

西分区は、八王子市の北方に面し東西に広がる地域で山間部も多く、都内とは思えないくらい山河、自然に恵まれた地域です。しかし社会の矛盾や歪みをもたらす不平等感からくる反社会的風潮は、深刻なものがあります。その中で、私たちの役割は何処までも健全化を目指していくところにあります。西分区は、今のところ 31 人の保護司で構成されております。私は、この職に就き一番大切なのは 31 人の仲間と胸襟を開き一つの目的に向かうことだと信じます。絶えず皆様方とコミュニケーションを重ね、情報の共有化を図りながら問題解決への努力を重ねていきたいと考えております。

道を誤った青少年や社会人の道しるべとなるためには、私達自身のたゆまぬ研鑽が肝要です。その前提として 31 人の仲間が腹藏なく話し合える関係を築くために努力したいと思います。

共に頑張りましょう！宜しくお願い致します。

総務部

平成 27 年度・平成 28 年度総務部長を担当させていただきます前田です。所属は西分区です。よろしくお願いたします。

総務部では、常任理事会、理事会開催のための会場の確保から開催通知、議案の調整、資料作成に始まり、会議の後には会議録を作成し各理事の方々への送付まで、会議開催には色々な作業や気配りが必要です。

また、保護司候補者検討協議会は新任保護司を推薦する会議ですが、その会議をスムーズに開催・進行するための準備も担当しています。

総務部の大きな仕事には、年間を通して最大の行事である定期総会の開催、そして会員の最大の懇親の場であります新年懇親会の開催があります。これは、総務部が中心となり行われますが特に定期総会の議案書の調整は、何度も理事会で慎重に協議され固まっています。

定期総会、新年懇親会の前には正副会長を含めた総務部会を開催し、会議の万全を期します。

また、会計は収支の管理を国が定める会計様式に則り適正に管理しています。

総務部は、とかく固いイメージがありますが部員一同和気あいあいと活動しています。

これからも八王子地区保護司会の縁の下の力持ちとしての役割をしっかりと果たして保護司会の順調な活動を支えていきたいと思っています。今後も、会員各位のより一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。
(総務部長 前田善一郎)

研修部

保護司手帳に信条として「常に研鑽に励み、人格識見の向上に努めます」とあります。研修部では、管外研修、自主研修、地域別定例研修を年間通して実施しています。

管外研修は平成 14 年までは 1 泊 2 日で矯正施設見学を中心に行なわれていました。今は日帰りで実施されています。

自主研修は管外研修が日帰りになってからは、講演会を主として実施されています。昨年は八王子市子ども若者サポート事業と共催で講演会を実施しました。

今年度も昨年度同様 2 月 20 日(土)クリエイトホールで講演会を予定しております。

管外、自主研修とも平均して 4～50 人の参加者で少ないように思いますので、地域別定例研修も含めて研修に参加をお願いします。

(研修部長 荒井 浩平)

第Ⅱ期地域別定例研修

日 時	平成27年10月2日(金) 午前9時30分
	平成27年10月7日(水) 午後1時30分
場 所	八王子労政会館 第1会議室(10/2)
	〃 第4会議室(10/7)
テーマ	「接触を確保するための関わり方について」

新任の保護司紹介

～どうぞよろしくお願いたします～
(平成 27 年 5 月 15 日発令)



☆一ノ瀬 隆 中央分区
住所 中野上町



☆小 俣 信次 みなみ分区
住所 北野町



☆橋 本 久美子 東分区
住所 (紫翠苑)

リレーエッセイ

～我が町の農園クラブ～

中央分区 中村福太郎

町会名は、中野西一町会で地域の人口が約 3,200 名。当クラブは、地縁団体法人で構成会員は、総世帯 800 戸、住民 2,200 名程の規模です。

町会活動のモットーは、皆で楽しく参加し、活動できることです。

農園クラブは今年で 7 年目に入り、私は発足時のメンバー 7 人のひとりです。農園クラブの主な町会行事には、6 月のじゃがいも堀りと 10 月のさつまいも堀りがあります。この恒例になったレクレーション行事には両方合わせて 200 名以上の参加になります。

日頃このクラブ（会員 35 名・平均年齢 60 歳）の皆さんが心をこめて一生懸命育てた野菜を提供しています。

当日、農園には子供さん、保護者、町会々員の皆さんが参加され、若い親子、中高ベテラン世代のコミュニケーションの場となって大変な盛り上がりです。そして、お昼頃には町会会館に戻り採りたての食材を使って試食会があります。（例コロッケ、肉じゃが、大学イモ、ポテトサラダ、けんちん汁、カレーライス他）

また、各自が収穫した野菜がお土産になります。皆さんはこうした楽しい体験ができ喜んでます。

ところで、じゃがいもの由来についてですが、原産地は南米アンデス山脈周辺、スペイン人によってヨーロッパに持ち帰られました。日本には 1600 年頃にオランダ船によってジャガタラ（現在のジャカルタ）港より運ばれ、ジャガタラという地名が変化してジャガイモという呼び名になったそうです。世界中には 2,000 種の品種があると言われてますが、日本では主に 20 種類で、「男爵」と「メイクイン」の 2 種類が生産量のほとんどを占めています。用途としては男爵（コロッケ、マッシュポテト）メイクイン（肉じゃが、シチュー）がとても美味しいようです。

最後に、原点といえる隣組関係から始まる地域社会の“つながり”が一番大切ではないかと思います。



趣味悠々

～広い世界へ～

西分区 新野 照代



私は、幼少のころから横田基地の飛行機を見て育ち「何時か飛行機に乗って大空を飛んでみたい。」と想っておりました。四人の子育てがようやく終わり末の子が義務教育終了後やっと解放され、趣味の時間を持つ事が出来る様になりました。飛行機にも乗った事がない私に、シドニーに滞在していた息子から「お母さんも来ない！」と声を掛けられ義父母の介護の暇を利用し、思い切って飛行機に一人で乗ったのが海外旅行の第一歩でした。

その後、保護司となり「多摩地区保護司会有志」で主催された海外旅行にお誘いを受け参加する様になったのが、第二の機会となりました。この会の旅行でアジア方面では、中国のシルクロードを訪ねて「西安から敦煌」悠久の砂漠を歩きました。その他マレーシアの熱帯雨林を訪ねた事やベトナムでは、戦争の惨禍も胸に刻みました。ヨーロッパ方面では「イタリア」「スペイン」「ポルトガル」等へも行を共にしました。いずれも一週間近くの団体旅行でしたが知識豊富な有識者の先生方により多くのことを学んだこと又予期せぬ事態に遭遇しても事態の処理や対応の仕方を沢山学びました。これらの経験を基に私は、世界の国々の雄大な自然、人々の暮らし（生活と文化）に今以上の深い関心を持つ様になりました。

お陰様で、私の海外旅行に対する垣根が随分低くなり興味のあるプランには、一人でも飛び込んで参加する様になったのです。年に 1～2 回ですが日本を脱出し心身共にリフレッシュ出来る事が私の最大の喜びとなりました。飛行機で旋回し着陸する時が「この国には、どんな人が生活しているのだろうか？」と想う時が一番心がドキドキして興味津々になります。

このような機会を次々と実現し充実した日々を送ってこられたこともそれを支えてくれた家族や様々なチャンスを与えてくれた周りの人々の協力があればこそ日々感謝しております。

退任の保護司ご紹介 ご苦労様でした

- 佐藤三千男（中央分区）
=平成 9 年 5 月初任（平成 27 年 5 月退任）
- 江添 秀雄（高尾分区）
=平成 9 年 5 月初任（平成 27 年 5 月退任）

シリーズ 保護司による八王子探訪

子安神社と船森

東分区 石田 秀子



八王子市の東部、浅川の南側に位置する明神町。1度の町内転居も含み、わが家をここに定めてはや37年。子どもにとっては勿論ふるさとだが、私にとってもすでに第二の故郷となっている町である。そして、この界隈の中心的存在が八王子最古の歴史を有する子安神社。この名社をご存じない方はおられないだろうから、再認識ということで、以下にご紹介する。

この神社の創建は1,200年以上の昔。天平宝字三年、時の皇后の安産祈願のために建立された。このとき奉納されたのが主神の木花開耶姫命（このはなさくやひめ）。神話によれば、燃えさかる産屋の中で無事、御子をご安産された姫皇女だ。以来、安産の神として、子安神社は近郷近在から篤い信仰を集めている。安産祈願の岩田帯や底抜け柄杓



を受けることが出来、秋の例大祭（10月23日）には育児祈願の泣き相撲が賑やかに開催されて人気を集めている。なお、神社を囲む鎮守の森は船森とも呼ばれているのだが、これは鎌倉時代、八幡太郎義家が奥州下降の際に戦勝祈願に櫓18本を寄進。これを舟形に植えたためという、これは歴史的事実。徳川幕府が編纂した「新篇武蔵風土記稿」には船森と呼ぶうっそうとした森と清流の巡る子安神社が描かれている。しかし、昭和20年8月の戦災も含



め、創建以来数度の火災によって境内の建物・樹木も損傷を受け、現在の社殿・森・池・葵記念館などが整備されたのは昭和37年のことである。

なお、境内には摂社として、江戸時代寛政以来、金比羅神社が遷座されており、商売繁盛・開運厄除け・交通安全の神として多くの参詣人を集めている。



以下、蛇足だが筆者には個人的思い出も少々。立川まで通った高校時代、住んでいた高幡不動から京王線で東八王子駅まで来て、中央線の八王子駅まで行くのに一番の近道はこの神社境内の通過。行きは小走りだが、帰りはゆっくり。深い森蔭と湧水豊かな池、そして紫色の藤の花房

の下に、友人とお喋りを楽しんだ記憶が甦る。昭和33～35年頃のことである。



の下に、友人とお喋りを楽しんだ記憶が甦る。昭和33～35年頃のことである。

編集後記

「保護司会だより」第97号が出来上がりました。巻頭言では八王子地区新会長から抱負を、立川支部長からは「社会貢献活動の本格実施について」を寄稿していただきました。今号は定期総会と社明運動の報告が主な記事となっています。

広報部では、より一層「読みやすく」「分かりやすい」編集を心掛けてまいりますのでよろしくお願いいたします。

ご多用中にも拘らず、原稿をご執筆頂きました方々に厚くお礼申し上げます。（橋本 記）